

# 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2017年11月30日  
第3号(通算第9号)  
教育指導課教育課程係

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり研修会

### ■ 仙台市立八木山中学校(授業研究) 講演: 田中博之氏(早稲田大学教職大学院教授)

10月31日(火)、仙台市立八木山中学校(境野 百合子 校長先生)を会場に、社会科と国語科の授業研究会を行いました。当日は、早稲田大学教職大学院の田中博之教授が、「主体的・対話的で深い学びの在り方～資質・能力の育成を基盤として」と題して、授業を振り返りながら講話を行いました。

#### <講話の概要>

当日の研究授業の内容を踏まえながら、アクティブ・ラーニングで育てたい子どもたちの資質・能力を中心に、お話がありました。主体的・対話的で深い学びの授業場面の特徴を示し、「深い学びを生み出す15の技法」(資料は裏面参照)を紹介しながら授業づくりの具体について提案がありました。

先生方には、深い学びの実現のために、各単元の指導において指導のねらいや児童生徒の実態を踏まえながら、「15の技法」を参考にしながら指導計画を作成し、実践につなげてほしいと説明がありました。

#### 【1年社会(地理) ヨーロッパ州】



須藤 浩司先生が「EU(ヨーロッパ連合)」を題材に多様な見方・考え方の育成を目指した授業を行いました。単元をつらぬく課題として「EUの利点と課題から、今後EUはどのようなことに力を入れるべきか考えよう」を設定し、当日の授業では、個々の考えについてグループ内で話し合い、意見をまとめ上げていく練り合いの活動を通じて、多様な見方や考え方を働かせながら、EUの利点や課題を考えました。

仙台市立南光台東中学校 吉岡康則校長先生からは、次のような指導助言がありました。

- 発表の段階で生徒から質問が出るともっと活発に話し合いができた。追質問やつぶやきの中に出てくる突っ込みを大事にすることで、見方の広がりや考え方の深まりが生まれる。
- どこの場面でも何を話し合うのか明確な意図を持って練り上げていくことが深い学びには大切。学習課題に対する、生徒の問題意識も重要な要素。この意識は日頃の指導を通して身に付けさせたい。
- アクティブ・ラーニングは方法論ではなく、理念を大事にしてほしい。

#### 【3年国語 故郷】

小野寺 健志先生が「故郷」を題材に3学年国語の授業を行いました。思い出の中の故郷と現在の故郷の変化や登場人物の描写に着目させ、人物像の変化を文中の表現を根拠に考えさせるものでした。授業後半にペア学習を取り入れ、自分の考えと違う部分や自分の考えに付け加えたい部分を確認しながら、考えを整理しました。意見交流を通して、新たな気づきや自らの考えを深めることにつながり、授業のねらいに迫ることができました。

仙台市立五橋中学校 岡崎 徹 校長先生からは、次のような指導助言がありました。

- 主体的、対話的な授業の実現のための方策として、「学びがい」「できたことや分かったことの振り返り」「発表への明確なコメント」「他の生徒が気付いていないことの取り上げ」が一つのポイントとなる。併せて、学習訓練は大事なポイントとなる。
- 本時の授業の柱は「ペア学習」。そこに時間をかけ、対話につながるような仕掛けを準備し、更に深い学びにつなげていきたい。形式的ではなく3回、4回と対話のキャッチボールを続けることが大事である。

(資料) 「深い学び」を生み出す15の技法

領域	技法	特徴
A 内容の 深まり	1. 資料やデータに基づいて考察する	思いつきや勘だけで答えを当てるのではなく、資料やデータに基づいて自分の考えを形成する。
	2. 既有知識を活用して思考や表現をする	既習知識を活用して（習ったことを使って）、考えたり表現したりする。
	3. 複数の資料や観察結果の比較から結論を導く	複数の資料や観察結果をもとにそれらを比較して、共通点や相違点を検討ししっかりと結論を出す。
	4. 友だちと練り合いや練り上げをする	ペアやグループでの対話を通して、考えや作品、パフォーマンスの改善課題を出し合って、練り上げていく。
	5. 知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする	思いつきや勘だけで考えるのではなく、知識やデータに基づいて仮説の設定や検証を行う。
B 技能の 高まり	6. 視点の転換や逆思考をして考える	異なる視点から考えたり逆のプロセスから考えたりして、相手の心情や自然現象、社会事象を深く理解し表現する。
	7. 異なる多様な考えを比較して考える	自分とは異なる多様な考えや意見を参考にして、自分の考えや意見を根拠や論理を明確にして形成する。
	8. 理由や根拠を示して論理的に説明する	思いつきでなんとなく考えたことを話すのではなく、理由や根拠を資料やデータを引用しながらわかりやすく説明する。
	9. 学習モデルを活用して思考や表現をする	思いつきではなく、しっかりとした学習モデル（思考や表現の技、アイテムなど）に基づいて思考や表現をする。
	10. 既製の資料や作品を批判的に吟味検討する	既製の資料や作品の正しさや根拠をそのまま受け取るのではなく、他の資料やデータにあたって批判的に検討する。
C 関連づけ	11. 学習成果と自己との関わりを振り返る	学習成果を客観的に示すだけでなく、そこで得た学びの意義や価値を自分の考えや生き方と関連づけて考察し表現する。
	12. 原因や因果関係、関連性を探る	自然現象や社会事象などの表面的な特徴だけでなく、その原因や因果関係、他の現象や事象との関連性について探る。
	13. 学んだ知識・技能を活用して事例研究をする	教科書や資料集にある一般的な制度やシステムの理解だけでなく、その知識を活用して具体的な事例研究を行う。
	14. R-PDCA サイクルで活動や作品を改善する	ただ作って終わり考えて終わりの学習にするのではなく、R-PDCA サイクルを通して活動や作品の改善を行う。
	15. 視点・観点・論点を明確にして思考や表現をする	ただ漫然と考えたり対話したりするのではなく、視点・観点・論点を明確にして焦点化した思考や表現をする。